

---

# 主人公の親友

貴族

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

主人公の親友

### 【Nコード】

N4303P

### 【作者名】

貴族

### 【あらすじ】

視点が違えば物語は違った姿に見える

…はず

ギャルゲ展開を別の視点から見る新しい試み

初めまして

俺は竹内、この春に高校二年生になった

勉強得意でスポーツ万能

文武両道を地で行く完璧超人だ

顔も悪くない

クラスでの信頼もあるし、先生からの評価も高い

ただ…一つだけ…一つだけ問題がある

それは…

俺が主人公の親友なんだ

〓五月初旬〓

《通学路》

俺の朝は早くもなく遅くもない

みんなと変わらない平均的な時間帯だ

ちなみに歩き

自転車通学可能範囲が100m足りなかった

それでもバス連中よりかはましかもな

自分の好きな時間帯を選べるし、何より人が少ないからだ

満員のバスや電車は苦手なんだよ

さて、そろそろだな…

「オーイ！ 竹内い！」

出たな…主人公

こちらに走ってくるのは黒髪の青年

名前は…

「おはよう、藤崎」

「ああ、おはよ」

藤崎 朋希

俺のクラスメイトだ

成績は得に良いわけでもなく、極めて平凡

スポーツは得意みたいだが俺には及ばない

まあクラスからも先生からも評価は高い…主人公だから

容姿は良い方だ

特徴は前髪が長くて、その前髪で目が隠れているところだ…主人公だから

そして…さっきから言っているが…コイツは主人公だ

タイプで言えば…エロゲもしくはギャルゲの主人公だな

「古文の宿題やったか？」

このパターンは…

「やったけど」

「後で写させてくれ！」

両手を合わせて俺に懇願する藤崎

「塩ラーメン」

わざとらしく大きな声をだす

「…足元みやがって」

ラッキー！

昼飯代浮いたぜ！

《校門前》

「はいそこっ！ 逃げようとするな！」

拡張器を通して少女の声が聞こえてくる

聞き覚えがある…

それに、この時間帯の校門前ということとは…

「服装検査か？」

「…みたいだな」

服装検査は皆から嫌悪される

少しでも制服の乱れがあれば嚴重な注意を受ける

破損している箇所があれば迅速な修理を要求され、後日改めて検査を受けねばならない

はっきり言うが、かなりうざい

「はいっ！ 次っ！」

俺らの番だな…

っておいおい…

コイツは…風紀委員長の…

「おはよう竹内君」

「おはよう」

彼女は鮫<sup>「しのさう</sup> 理花<sup>りか</sup>

彼女もまた、俺と同じ二年生だ

クラスメイトではない

彼女は二年生で風紀委員の委員長を勤めている

理由は簡単だ

今年から初めて風紀委員というものが作られたからだ

それまでは、一部の教師が服装検査をやっていたわけだ

風紀委員の話を掘り下げたいが、ここから先は藤崎が終フラグを立てたときの為に取っておこう

さて、彼女の話に戻ろうか

彼女の成績はトップクラスだ

運動は走るだけなら優秀

性格は生真面目

融通が効かないので同性からの人気は薄い

しかし、一部の変態男子からは女王様的な崇拜を受けており

男子風紀委員の全てがよく訓練された変態だ

容姿は……この容姿が問題だ…

彼女は整った顔、端的に言えば美人だ

そして、風紀委員にあるまじき体つき

はっきり言えば Wonderful Body なわけだ



だから女王様として崇められている訳だな

髪はショートヘアで色は薄い紫色

ありえねえ…何故誰も疑問に思わねえ

日本人っていうか…地球人類の髪の色じゃないだろ！

だけど、誰も疑問に思わない

彼女はヒロインだから

「よう、鮎！ 朝から大変だな！」

「ふっ 藤崎君!？」

驚きすぎ…

そして頬を赤らめるな

フラグ立つの早いんだようらやましい

……

「えっと…それじゃあ…上着を脱いで」

……

「ほいよ」

……

「シャツよし…ベルトよし…ネクタイは…曲がってるじゃない」

……っ

「ホントだ…気づかなかった」

……鏡見る……

「まったく!」

………!

「っておい! 終!」

………

「これでよし! 次からは気をつけてね」

………

「あっありがとう!」

「言っておくけど! 別に他意はないわよ! 私はただ…風紀委員  
として…」

「わかってるよ。でも、ありがとな!」

爽やか！

「~~~~~／／／」

……………死ねばいいのに…

〜昼休み〜

《教室》

「よっしゃあ！ 終わった終わった！！」

何が終わったただ、居眠りしていたくせに…

「藤崎、朝の約束だが…忘れて無いよな？」

「わかったよ…」

昼飯ぐらいたからないとやってられん

「あの……………藤崎君…竹内君」

教室から出ようとするクラスメイトの女子から呼び止められた

こういう事は、主人公と一緒にいるとよくある

そう…主人公と一緒にいるとだ

俺一人だと絶対に起きない現象だ

「今から…お昼？」

「そうだけど…なんで？」

なんで？ だと？

ふぎけるなよ…女子が顔を赤らめて昼食の話題をふってくるという  
ことはだな

たいていの場合には昼食に誘いたいからだろ

つと言うより…雰囲気だ察しろ朴念仁

……世界が止まった気がする

ここで選択肢だな

「そうだ！ よかったら一緒に食べないか！」

天然ジゴロ入りました！

「えっ…あっ…うん」

おどおどしている…なんか小動物みたいだな

「じゃあ、早く学食行かないと…」

「待って！」

「？」

ハイハイ手作り弁当入りましたー！！

「お弁当作って来たから…」

「ああ…そうなのか…だったらパン買ってくるからちょっと待って…」

「えっあの…」

…ちよいとフォローに入るか

「馬鹿野郎…そうじゃないだろ」

「何が？」

ふざけているのかコイツは？

「彼女の持っている弁当をよく見てみる」

そして、足りない頭でよく考えてみな

「……でかいな……つまり……」

大食いとか言いやがったらぶっ殺す

……また世界が止まった気がする

「俺達の分なのか？」

正解の選択肢を選べたみたいだな

「うっうん……」

「おおっ！ありがとうな！」

主人公というのは世話が焼ける

さて、移動中に彼女の事を説明しましょうか

彼女は、さかき榊 ゆづな結菜 クラスメイトの女子だ

成績は上の下といったところ

運動は苦手らしいな

性格は大人しい子で真面目

遅刻を一度もしたことが無いのが自慢だとか

容姿……またこれが問題だ

彼女は幼さが残る顔立ちをしており  
身体も小さい

はっきり言うが…ロリだ

これまたありえねえー

背の低い子はいるかもしれないが…

いくらなんでも、見た目小学生の高校生はないだろ！

なんで誰も疑問に思わない！！

《屋上》

そんなわけで屋上だ

屋上は二年前は閉鎖していたらしいが…

去年に解禁されたらしい

理由は簡単

主人公が入学したから

俺が一年の時に、藤崎とは別の主人公が居ただよ

いわゆる…前作の主人公だな

そいつは今、ハッピーエンドを迎えて幸せに過ごしている

まあ、俺のおかげでな

その話は今はどうでもいい

屋上の話に戻るか

通常、屋上には不良生徒がたむろしているのだが…

今は都合よく誰もいない

主人公補正というわけだ

今日は補正かかっているから良いが

補正の無い時は俺が露払いをしている

何故そんな事をするのかと聞かれれば…

俺が主人公の親友だから

と答えよう

俺達は適当な場所を確保し、それぞれ適当に座る

「榊の弁当楽しみだなあ」



わかってないな…藤崎よ

ヒロインの弁当程危険なモノはない

さて、ギャルゲによくある展開…ヒロインの手作り弁当だ

ちなみに、こういうイベントは確実にCGが入るから覚えておくように

うむ、弁当の話にもどるか

ヒロインの弁当には二種類ある

一つは五つ星シェフすら凌駕する最高に上手い弁当

もう一つは…

某国の科学兵器に匹敵する破壊力、浸蝕力をもった食物兵器だ

二つに一つ…彼女はどちらのパターンか…

「頑張つて作ったの…」

こっこれは…

「おお、上手そう！」

早まるな藤崎！

いくら見た目が良かろうと、これはヒロインが作った弁当！

そこら辺のモブキャラが作ったモノとは次元が違う！

覚悟を決めてかからねば…最悪、ショック死でBAD ENDだ

はいきた！

ここで選択肢

- 1 何も考えずに食べる
- 2 用心して食べる
- 3 食べない

この場合、3番が最も安全

しかし、ヒロインの好感度が下がる…安牌だが得策ではない

ならば2番を選ぶのが良い

2番だ！

2番をえらべ！

- 1 何も考えずに食べる

一番ありえない選択肢選びやがった…！

マズイ…このままでは本当にBAD END直行だ！

致し方ない…あれをやるか

俺は藤崎が弁当に手をつける前に箸で卵焼きを掴む

「竹内！ お前…」

「悪いな、最初の一口は頂いた」

スマン藤崎、榊さん…

しかしこれもBAD END回避のため…

俺の毒味が済んだら、二人でアーンと洒落込んでくれたまえ

「……………」

しかし、これはまずったかもしねん…

俺が掴んだ卵焼き…コイツはヤバイ

卵焼き…それは弁当の定番中の定番

定番故に、数多くの弁当イベントにおいて

『じゃあ定番の卵焼きから…』

などと言って、その命を擦り減らした主人公を何人も知っている…

……俺も…何度餌食になったことか…

まずは卵焼き以外のおかず…例えば意外に殺傷力の低いメインディッシュや軽いサラダ等で腹を馴らしたい

でなければ強敵、卵焼き攻略のハードルは高い

「じゃあ…榊さん…頂くよ」

「うっうん…」

逃げたい…すんげー逃げたい

だが…俺がここで逃げたら…

………

………やるしかない！

「南無三！」

！！？

こっ…これは………

「予想通りだったぜ……アバババババ……」

「たっ竹内い！」

「竹内君！ 大丈夫！？ しっかりして！」

「ハッ!!」

俺は…一体…

「大丈夫か竹内!? いきなり泡吹いて倒れるから心配したぞ!!」

「竹内君…」

……榊さんの卵焼き…

数多くの手作り料理イベントを歴代主人公とともに乗り越え

鉄の胃袋と自負していた俺を……

この弁当…

通常の三倍の破壊力を持っている…

そうか…だから弁当箱が赤いのか…

とりあえず、藤崎に俺の意思が伝われば良いが…

- 1 何も考えずに食べる
- 2 用心して食べる
- 3 食べない

再び来たな選択肢…

さあ…何を選ぶ…

2 / 用心して食べる

あの光景を見てなお、逃げ出さないのか…

流石は主人公だ！

「……………はぐっ……………うっ上手いよ…榊……………」

馬鹿な！？

あれを口にして正気を保っているだと！？

これが主人公か…

敵わないな…

「良かった…それにしても、竹内君大丈夫？」

「問題ない、さっきのはアレだ…上手過ぎて身体がついて来なかったんだ」

「そういつて貰えると嬉しいな」

……………とりあえず…二人の邪魔をしない為にも、適当な所で消えねば…

「榊はよく料理をするのか？」

馬鹿野郎！

料理の事を掘り下げるな！

次は弁当では済まなくなるぞ！！

…と言ったものの

ここで料理の話について詳しく聞いておけば、いずれ彼女の家に招待…または夕飯を作り自宅に…

等という嬉しいイベントがある

……まあ、手作り弁当を遥かに凌駕する殺傷力を持つ手料理を食べねばならんがな

「最近、お母さんに習って練習しているの」

母上は何をしているのだ？

さすがに味見の一つでもするだろうに…

まさか母親も料理が…

いやいや…それは考えすぎだな

うん…考えすぎ…だよな…？

「えっと、今度…晩御飯食べにくる？」

「えっ…っ！？……うっうん…お邪魔するよ」

……

… 頑張れ主人公

… 夕方 …

《通学路》

「じゃあまた明日な、竹内」

「ああ、また明日」

藤崎とはこの十字路で別れる事になる

俺の家は道を左に曲がる必要があるが、藤崎の家は真っ直ぐ進んだところにある

この些細な違いも、主人公とその親友という立場を現すものだ

しかし… 今日のイベントは二つだったか

平均なら、一日三回はあるはずなのだがな

藤崎と別れた後もその場に留まり、そんな事を考えていた

ちなみに藤崎はまだ視界に入っている



まあ、まだヒロインの数も少ないし…こんなものか……

「って……おい……」

空から…女の子降ってきたぞ

おそらく、藤崎のほぼ真上

上空から落ちてきているはずなのにそんなに速度は出ていない

「…藤崎はちゃんと受け止められるのか？……あつ受け止めた」

常人ならあわてふためくであろう光景を目の当たりにしながらも、俺はかなり落ち着いていた

何故なら……

「しかし、久しぶりに見たな…あの子で実際に見たのは三人目かな」

そう、俺は既にこのような場面に遭遇した経験があるのだ

……毎回疑問に思うのだが

…主人公は普通に女の子を受け止めるが…腕は大丈夫なのか？

普通は腕が折れるだろ

非常に重大な疑問だ

「つておい…いきなりキスかよ」

これは…明日から波乱の予感

さて、如何だったかな？

今日一日、俺から見た主人公は？

どう感じたかは人それぞれだが…

俺の感想を言わせてもらうと、藤崎は…主人公は凄いい奴だ

人を引き付ける何かがある

主人公補正やらお約束やらと言われているが…それは違う気がするな

上手く説明は出来ないが…

そうだ、最後に言っておきたい事がある

お気づきかもしれないが、主人公の親友が俺だけで、主人公は俺の親友じゃないからな

「では、また機会があればお会いしましょう」

……塩ラーメン忘れてた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4303p/>

---

主人公の親友

2010年12月11日15時32分発行